

日本初月面着陸

探査機、世界5カ国目

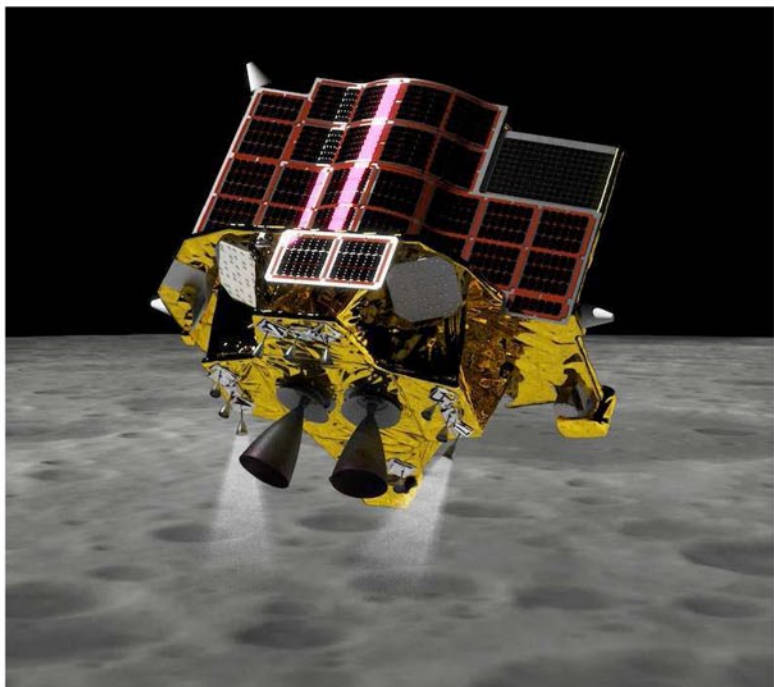
JAXA 太陽電池発電できず

宇宙航空研究開発機構（JAXA）が開発した小型探査機「SLIM（スリム）」が20日、月面に着陸した。JAXAは記者会見で「探査機の月面への軟着陸は成功した」と発表した。地球の約6分の1の重力がある月での着陸は難しく、日本初で、世界では旧ソ連、米国、中国、インドに続き5カ国目。宇宙開発を巡る各国との競争が激化する中、日本の高い技術力を示した。

JAXAによると、通信は確立できているが、太陽電池の発電ができておらず、状況の解析が続いている。午前0時ごろに高度約15キロから最終降下を始め、約20分かけて赤道南側にある「神酒の海」のクレイター付近に着陸したとみられる。

今回は狙った場所から100メートル以内にピンポイントに着陸させる世界でも前例のない技術実証が目的。月には水が氷の状態で局所的に存在するとされ、「降りた場所」に降りやすい場所」に降りていた。着陸では、スリムが飛行しながら撮影したクレイターや地形の画像と、事前に入力した月面地図を照合して着陸場所を特定する「画像照合航法」を使った。機体には5本の脚があり、1本の主脚で接地後、斜面向かい倒れ込むように補助脚を接地させる「2段階着陸」で安定を図った。

スリムは昨年9月7日、種子島宇宙センター（鹿児島県）から国産のH2Aロケット47号機で打ち上げられた。燃料の消費が少ない軌道を選んで約4カ月かけて飛行し、昨年12月25日に月の周回軌道に入った。



探査機「SLIM」のイメージ（JAXA提供）



JAXA相模原キャンパスの記者会見場に映し出された、小型探査機「SLIM」が降下していることなどを示す映像。20日午前0時9分、相模原市